

安部公房「生誕100周年祭」あすから新潟

映画、講義…「内容多彩、楽しんで」

高3の八百枝奈瑠さん企画



安部公房の生誕100周年祭について語る八百枝奈瑠さん
〓新潟市中央区

「いないと知り「私がやってみよう」と企画を提案。生誕100年で公開された映画「箱男」（2024年、石井岳龍監督）を上映する機会に合わせて、実現にこぎ着けた。

シネ・ウインドでは25日に「砂の女」、24日、26日、28、30日には「箱男」を上映。八百枝さんが通う関屋草月会による安部をイメージした生け花も展示している。

このほか25日、6月6日に市内2カ所で多彩なイベントを予定する。6月6日には新潟市中央区の第一学院高新潟キャンパスで小説「罇」の講義も開かれる。

八百枝さんは「安部を知らない人も好きな人も楽しめるイベントを企画した。生誕100年を新潟で祝いたい」と話している。

問い合わせはシネ・ウインド、025（243）5530。

2024年に生誕100年を迎えた作家安部公房の「生誕100周年祭」が24日から、新潟市中央区の新潟・市民映画館シネ・ウインドなどで開かれる。映画上映や小説に関する講義など、多彩なイベントを展開する。企画した第一学院高3年の八百枝奈瑠さん（18）〓新潟市中央区〓は「上映とイベントを通じて、映画とその余韻も楽しんでほしい」と呼びかけている。

安部は1924年、東京生まれ。前衛芸術グループ

に参加し、華道草月流の三代目家元勅使河原宏さんらと交流した。勅使河原さんが監督を務めた映画「砂の女」（1964年）は、カシノ映画祭審査員特別賞を受賞した。

八百枝さんは高校1年で草月流の生け花を始め、勅使河原さんの存在を知った。作品を調べる中で、安部の小説や映画にも興味を持つようになった。

24年からシネ・ウインドでアルバイトを始めた。本県では安部の生誕100年イベントが開かれて